

# 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○12月29日～

先週はクリスマスで海外での取引も少なく、週の前半は低迷した動きでしたが週末にかけて円安・株高の動きとなりました。

週明けに日銀が今月の日銀金融政策決定会合での意見などについて公表します。

日銀が何か今後の金融政策について新しい材料を出せば市場は反応するかもしれません。

また、トランプ関税についてのニュースや海外の動きにも注意がいります。

最近は起こっていませんが年末・年始の取引の少ない時にフラッシュ・クラッシュのような乱高下の動きが出る年もあるため年越しポジションは少なくしておくのが安全です。

テクニカルで見ると、ドル／円もクロス円も円安トレンドが継続しているため週足で見て、上昇トレンドが崩れてくるまでは円高を期待した取引は控えた方がよさそうです。

高市政権は物価高の原因となっている円安を放置できないと考えているためドル／円が160円を超えてくると介入の準備に入る可能性が高まります。

ドル／円の介入を行なうには、米国側の許可が必要なため米国がドル高やドル／円レートについて何かコメントするかも注意しておきたいです。

今月利上げした日銀ですが、今のところ利上げによる円安抑制効果は全く見られず、来年早期に利上げしなければ円安が止まらなくなる可能性もあります。

世界的に見るとインフレへの懸念は残っているものの、インフレ懸念は落ち着きつつあります。

多くの先進国で政策金利は2～4%程度です。

日本の政策金利はまだ1%以下ですが2%に近づけば先進国との金利差はほとんどなくなっています。

金利差が為替相場のトレンドに変化を起こすかどうか米国だけでなく、欧州やその他の国の金融政策にも注意を払いながらチャート分析も同時にていきたいです。

米国では FOMC 議事要旨が発表されますが今月のFOMCでの政策の見通しを示すドット・プロット(金利予測分布図)では、来年の利下げは1回との予測となっています。

また、2027年の利下げ予測も1回となっているためかなり緩やかな利下げとなっていきそうです。

株価や仮想通貨の市場は過度に利下げを期待した動きが見られたため来年以降、流れが変わっていくかもしれません。

他の市場の流れが変わってくると為替市場にも影響が出るので、あわせて見ておく必要があります。

今週は、年末・年始のため株式市場などは31～2日は休場になる国が多いです。

為替市場は、元旦(1日)は休みですが31日、2日は動いています。

日本の株式市場は30日が大納会、5日が大発会です。

# 今週の相場はどうなる？

## ● テクニカルで見た重要なポイントは？

### <ドル／円>

先週はじわじわと円高が進みました。週末には大きく反転し、156円台半ばでマーケットが終わっています。

11月後半から154-158円のレンジを動いているため年末・年始も基本的にはこのレンジを意識したいです。

上値は156.8円を超えると再度158円を目指す動きが出そうです。

158円を超えると158.8円がターゲットになります。

下値は先週安値の155.5円を割り込むと154.3円あたりのサポートが意識されそうです。

ここも割り込むと153円あたりまで下がるリスクが出てきます。

### <気になるクロス円>

クロス円も先週末に大きく上昇しているペアが多く、高値更新が続くかどうかに注目したいです。

貴金属価格が上昇しているため資源国通貨には追い風が吹いています。

ドル／円よりもクロス円の上昇が大きくなっていく可能性もあり、週足や月足なども確認して、中長期的な上昇が続く場合、流れにのっていきたいです。

\*クロス円とは円との通貨ペアの総称:○○／円というような通貨ペアのことです。

### <今週のファンダメンタル>

日本では金融政策決定会合での意見公表などがあります。

米国では11月住宅販売保留指数、10月住宅価格指数、10月ケース・シラー米住宅価格指数、12月シカゴ購買部協会景気指数、FOMC議事要旨、前週分新規失業保険申請件数、12月製造業PMI(改定値)などが発表されます。

欧州ではユーロ圏とドイツで12月製造業PMI(改定値)などがあります。

ほかには、中国で12月製造業PMIなどがあります。